

四半世紀



同窓生の皆様明けましておめでとうございます。3期卒業の小川内充です。昭和56年卒業後、東京で2年間勤務の後昭和58年に佐賀県杵島郡大町町にて開業し、早四半世紀が過ぎました。今でもよく覚えているのですが、開業初日は17人の患者さんが来院されました。当時の来院される患者さんの口腔内は惨憺たる状態で毎日毎日が悪戦苦闘の日々でした。東京で勤務していたせいか、義歯の患者さんはほとんど経験がなく、どうすれば噛める義歯が入られるか苦勞していました。これではだめだと思い、阿倍晴彦先生のコースを受講したのがきっかけで、研修会通いが始まりました。故保母須弥也先生のIDA、恩師の山田勲先生の矯正研修会、船越栄治先生のペリオ研修会、故古賀正秀先生のオステオパシー研修会、富田健二先生のコンプリートデンチャー研修会、一田栄治先生のプロネマルクインプラント研修会等…。また、友人にもめぐまれ「佐賀0の会」というスタディーグループに参加し臨床歯科を語る会にも出席させてもらいました。

おかげをもちまして、これまで26年の間に2万6千人もの患者さんの治療に携わってきましたが、未だに試行錯誤の毎日です。私どもの医療法人 小川内歯科の理念のひとつに患者様に対して「恕の心」を持って接するということがあります。これは、患者様の立場に立って私も含め従業員全員一人一人が治療に専念するというのですが、毎日朝礼時に全員でこのビジョンステートメントを復唱しています。

最後になりましたが、本年10月佐賀県武雄市で九地連学会が開催されます。たくさんのお窓の先生方との再会を楽しみにしておりますので、是非多くの皆様のご参加をお願い申し上げます。

小川内歯科(佐賀県杵島郡大町町) 小川内 充(3期)

写真上=医院外観
写真下=筆者(前列中央)とスタッフ



三種の神器？



こんにちは、19期生の湯田和正と申します。昨年は新型インフルエンザに振り回された1年でしたが、皆様いかがだったでしょうか？ようやくワクチンの接種が始まり、小さなお子さんのいらっしゃる方、持病をお持ちの方はホッとされたことだと思います。

平成17年に1階にあった父の婦人科医院を2階へ移してもらい、1階に「湯田歯科医院」を新規開業いたしました。その頃の患者さんといえば2階の婦人科の患者さんがほとんどで、女性に囲まれて診療していました。男性の方は入りづらかったそうです。お陰様で今年5年目を迎え、近所の方(老若男女)にも来院していただけるようになり、ようやく地域貢献の第一歩を踏み出しました。

開業当初にふと眺めていたテレビで「行きたくない病院のNo.2は婦人科でNo.1が歯科」という声が流れてきました。スタッフと「ではこの建物は行きたくない病院のNo.1とNo.2が入っているのですね」と笑った事をよく覚えています。

ところで、皆さんにとって三種の神器は何でしょうか？下の写真でおわかりのように、私の神器はライトとルーペ(3.5倍)とルンバ君(自動掃除機)です。今まで見えてるつもりが、実は全く見えていませんでした。ヨドバシカメラで購入したライトと合わせると「目から鱗」です。メガネは借り物ですが、いつかは自分のものにしようと思っています。さて、ルンバ君。一番の働き者。診療が終わってからもずっと(文句も言わずに)働いてくれます。この三種と優しいスタッフに支えられ日々働いております。

痛みと不安をかかえて来院される患者さんの気持ちにこたえ、定期健診や予防、フッ素塗布の必要性を強く訴えて「行ってよかったNo.1」となる様、日々精進して参りたいと思います。これからも皆様のご指導よろしく願いいたします。

湯田歯科(福岡市) 湯田 和正 (19期)

写真上=医院外観
写真下=筆者と三種の神器

